

五小の風景

No. 11

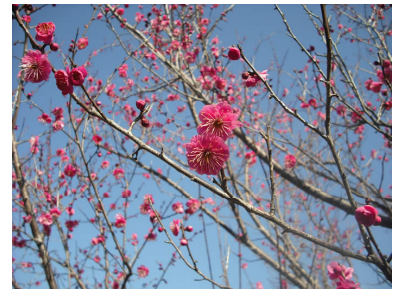
五日市小学校長 國政 直文

豊かな言葉づかいを

「東風ふかば にほひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れそ」これは菅原道真の有名な歌です。この歌にも詠まれているように匂いのいい紅梅が咲き始め、春の訪れを感じる今日この頃です。6年生は卒業まであと4週間、1年生から5年生も残り4週間ちよつととなりました。別れ・出会いの春がもうそこまできています。新しい学年までの残り少ない日々を大切に過ごしてほしいものです。

さて、今回は『言葉づかい』について考えてみたいと思います。ある雑誌に「言葉の断片化」という題でこんな記事が載っていました。

「知識の断片化だけでなく、言葉の断片化が進んでいるという。たとえば授業中に『先生、トイレ』というのもそうだ。そんなとき、教師はどう対応しているのか。ある女性教師の例を紹介する。授業中に、子どもが手を挙げ、『先生、トイレ』と言ったとき、笑いながら『先生はトイレではありません』と言ってから、『何と言えよよいの？』と言うと、子どもは『先生、トイレへ行ってもよいですか』と言い直すので、教師はさらに『それを先生が決めてもよいの？』と言うことにしているという。この話は、ある研究会に参加していた教師から聞いた話だ。新学習指導要領では、コミュニケーション能力の育成・強化をうたっているが、こうした言語の断片化をその都度訂正し、指導していかなければ効果はないと思う。』



この記事にあるように、自分の思いを正確に（誰が、何を、どうしたいのか等）相手に伝えることができにくい子どもが増えていることは実感するところです。こうした子どもたちの実態を見て思うことは、子どもが、断片的な言葉づかいをしたときに、はたして私達大人がどれだけいねいに、その都度指導しているのかということです。忙しいからという理由から、毎回毎回指導するのは面倒だからという理由から、あるいはいはずれきちんとと言えるようになるだろうからという思いから、ていねいな指導をしていないのなら、私達も大いに反省すべきです。今後は子どもへの適切な指導を心がけていく必要があると考えます。

文部科学省が発表した小中高校の「平成20年度問題行動調査」の結果によると、「児童生徒による暴力行為」は、前年度から約13%、7000件増の5万9618件と過去最多を更新しています。自分の思いが相手に伝えられなくて、暴力に訴えてしまうという傾向はとても憂慮すべきことです。すぐに暴力に訴えてしまう子どもが増えているということには、いろいろと原因があるのですが、一つには、言葉の貧困な子どもたちが増えてきているといえるのではないのでしょうか。

以前、作詞家の阿久悠さんが、新聞に「子どもたちがせめてもう3語、自分の思いを伝える言葉を持っていたら、人を刺したり、人を殺したり、自分自身を傷つけたりすることもないだろう。」ということを書いていたそうです。まさに今、子どもたちには、少なくとも、もう3つばかりの自分の思いを伝える言葉をもってほしいと思います。

だからこそ、子どもたちには「言葉を用いて自分の思いを相手に伝える力」をこれからはしっかりと身につけさせていく必要があります。したがって、新学習指導要領では、どの教科でも「言語活動の充実」を図ることとしています。

どんな言葉をどのように言えばいいのかということをしつかりと考える習慣がつくよう、日々の授業の中で取り組んでいくことが大切です。

また、授業の中だけではなく、学校でも家庭でも、断片的な会話ではなく、何を、どうしたいのか、どう感じているのかなどが明確な会話を日々心がけることが、子どもたちの言葉の貧困さを少しでも克服し、豊かな言葉づかいのできる子どもを育てることにつながるのではないかと考えます。

時間に追われ、お忙しい日々をお過ごしのことと思いますが、これからの日本を背負っていく子どもたちが、正しく、豊かな言葉づかいができ、自分の思いをしつかりと伝えることができるようになるよう家庭・地域・学校で力を合わせていきたいものです。よろしくお祈りいたします。